



聖アンデレ教会 教会報

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com

さかえ

第 380 号

発行人：牧師 司祭フランシス下条裕章
編集人：エレミヤ 大岡 祐一朗
ヨハネ 柳生 義人
マリア・モニカ 横田 美幸

「わたしの記念としてこのように行いなさい」
(コリントの信徒への手紙 I 11:24)

司祭フランシス下条裕章

感謝・賛美という意味を持つ「ユーカーリスト」は、キリスト教会の最も重要な礼拝と言われています。聖餐式、ミサ、パン裂きの礼拝、主の晩餐など様々に呼び表され、イエス・キリストの記念として、絶えず献げられ続けてきました。古くは紀元五〇年頃、キリストの死後二〇年も経たない時すでに、教会に伝えられていたものとして明らかに記録されています。またここで詳細な解説をすることはできませんが、主イエスの受難と復活、最後の晩餐、五千人の給食、さらにモーセの出エジプトの過越しと救いの旅路、天国の祝宴にまで関わる壮大な背景を持った私たちの祝典です。

とても大切なことなので、ある教会では、毎日ミサを献げ日々に親しみ、日曜日には信徒がこれに与えることは義務であり、これを休むことは懺悔すべき罪とされています。また別の教会では、これは大切な礼拝なのでひと月の準備と同じくひと月の感謝の時を持つとすれば、聖餐の式は年に四回がやっただと伺ったこともあり、表現やあり方は違っても、どれほどキリとって大

切で、欠くことができないもので、欠かさないようにしなければならぬことは明らかでしょう。洗礼・堅信を受けたから信徒として歩むものとなつたという間に間違いはありませぬ。しかしそれで完成というわけではありませぬ。むしろキリストの群れの中に歩むものとなつたからこそ、私たちはこの祝祭に与り続けるのです。この食卓に与ることは、信徒の権利とも義務ともいうことができませんが、むしろ信徒にとつて当然のこと。欠かすことができない日々いたるしなのです。かつて過越しのいけにえを備えることが神の民のしるしであり、その食事をとるしにすることが家族の証しであったように、キリストの体と血、命のパンに与る聖餐によって、信徒は神の民・主の家族としてのアイデンティティーを確かめ、認め合えるのです。主の僕として仲間とともに感謝賛美を分かち合い、味わうのです。もし教会に出かけて聖餐に与ることが難しければぜひ一度、牧師に牧会訪問の希望を伝えてみてください。さて日本聖公会では、

父と子と聖霊の名によって洗礼を受けた者を、信徒と認めています。さらに主教の按手による堅信の恵みに与り、所属教会の聖餐式に連なつて年に2回以上陪餐している者を現在堅信受領者と呼んでいます。彼らは、いわば「教会に責任を持つて関わることができるおとな」として扱われることになり、在籍する教会の総会に議席を持ち、また選挙人あるいは被選挙人として、教会委員等の選出に関わることとなります。ご存じの通り、教会委員は信徒を代表し、教会委員会を組織し（日本聖公会法憲）、牧師のもとで教会の運営に必要な事務をつかさどる職務にあたる（同法規）ことが定められています。地域・社会に向けた教会の働き、礼拝と宣教と奉仕を支える働きに備え、司牧の働きを支え助けて、ともに教会の運営事務にあたります。どのような人びとがこの奉仕の働きにふさわしくまた教会の働きをより豊かなものとしてゆくことができるのか、選挙にあたるお一人おひとりには祈りと知恵を尽くしてこれに臨んでいただきたいと願っています。

敬老の日の集い

再会の日

ミカエル松岡正治
聖アンデレ教会の敬老の日の集いに出席することが出来、大変嬉しく思いました。

アンデレには、古くからの信者も多く、三代も四代も続く信徒も居られます。皆様が一同に集まり、喜びを共有するこのイベントは、素晴らしいと思います。

当日は幹事の方々による興味深い企画があり、楽しい時間を過ごすことができました。特に、中村執事の歌と踊りは迫力があり、大いに盛り上がりました。普段はなかなかお会いできない方々と交流する機会はとても有意義であり、忘れていた多くの事を思い出しました。聖アンデレ教会には昔から由緒ある方々、たとえば福沢諭吉さんや小泉信三先生のご子孫の方が居られます。それぞれが聖アンデレ教会で過した思い出を語り合う機会が持てるようなれば、また新しい出会いが生まれる事と思います。次回は、今回来会出来なかった方々もお誘いして楽しい会を続けていただきたいと願っています。準備して下さった多くの方々により御礼申し上げます。主に感謝。

ファミリーデー

マリア・モニカ 横田美幸
今年八月二七日に、ファミリーデーが行われました。十時三〇分からファミリー礼拝が行われ、愛餐会、子どもプログラム、大人プログラムと、世代を超えての一日をすごすことができました。ファミリー礼拝は、式文前半を子供礼拝の式文を用いて、

後半を聖餐式の式文を用いての礼拝でした。礼拝奉仕を子供たちが担い、大人四六名、子供二四名の方々が参列してくださいました。愛餐会では、炊き込みご飯を頂きました。愛餐会后、子供は水鉄砲作り、プール遊び、スイカ割をしました。大人は整体の山崎基成先生をお迎えし、整体まっすぐセルフケア講座をしていただきました。コロナウイルス感染前は、ファミリーキャンプを行っていましたが、準備等も含めて十分な時間が確保できないことから、本年はファミリーデーと称し、ファミリーキャンプ縮小版としてでしたが、開催場所が聖アンデレ教会であったため、気軽に参加いただけたのではないかと思います。

世代を超えて、大人も子どもも一緒に同じプログラムをするのは、それぞれ状況を見みると、難しい場合もあると思います。

今回のファミリーデーでは、和やかな子供礼拝の子供たちが、緊張した面持ちで礼拝奉仕をする姿、またそれを優しいまなざしで見守る大人たちがいる。みんなが一緒に一つになろうとしている、そのような優しい時間も共有できたのではないかと思います。コロナにより場所も時間も自由に選択できるようになりました。自由に選択できるのであれば、みんなと一緒にを選択することも自由だと思います。

優しい、楽しい時間をできるだけ多くの方々と共有することのできるファミリーデーを来年？も開催させていいただく際には、皆様の貴重なお時間を拝借できたら幸いです。是非ご検討ください。

二〇二三年中高生世キャンプレポート

中学三年 仲江美伶

キャンプ当日、初めて皆と顔を合わせた日、緊張とワクワクが混ざった変な気分でした。もらったファイルに目を通すと、日程表に「分かち合い」という聞きなれない単語が目に入りました。どのようなことを分かち合うのだろうか？と疑問に思ったまま、その「分かち合い」の時間がやってきました。

お題は「人生の中で今の自分を作りに上げた出来事を三つあげる」というものでした。

私は、自分のことを誰かに話すことで自分の悪い面を他の人に知られたくないし嫌われたくないなと少し躊躇い、話したくないな：と思っていました。ましてや、今日初めて会った人たちに話すなんて！...けれど、思い切って話してみると自分が今まで経験してきたことに対して思ったことは間違ってたなかったんだとか、辛かったことを経て得た自分の考えを何人も共感してくれたりして、心が軽くなったような気がしました。それと同時に、自分のことを人に話すことは意外に言葉に表現できず、すごく難しいことだとわかりました。

また、他の人の話を聞くと、その人についてもっと知ることができると、自分の考え方が少し変わったりと、その人が持つ価値観から、『自分の視野を広げる』ことができました。そして、自分のなりた姿や目標が明らかになって、心にあったモヤモヤが整理されたような気がしました。

今回のキャンプで新しい多くの仲間と出会え、分かち合いをおして

人との繋がりが温かみをたくさん感じることが出来ました。学習の学びではなく、普段生活していく中で、考え方を皆から学ぶことができて、とてもいい経験になりました。この夏のキャンプの思い出を忘れず、来年も参加したいと思います。

小中高生と夏休み

ドルカス 杉山奈津子

今年の夏はとにかく暑くて長かった。小学生晴信は宿題があるだけで、教会のキャンプもなく、ひたすら友達と遊ぶだけだった。

中学生 真之はただただ部活。来年は受験生で、夏には引退しているだろうから。部活漬けも悪くはなかったのかもしれない。

高校生 響は夏休みとは言えない程忙しく、大変だった。部活の合宿、ボランティア（教会でカレー作り）、夏期講習、吹奏楽コンクール、そして、教会の中高生キャンプにも参加した。

小学生の時参加していたキャンプの知り合いに連絡して、共に参加することにになり、バタバタと支度をしたので慌ただしかった。キャンプではスマホを使えないルールになっており、デジタルデトックスになって良かったのではないかと思っている。聖書について考え、学ぶ時間もたくさんあったようだ。また、聖歌の伴奏もたくさんしたそうで、知らない曲をすぐに弾かなくてはならず大変だったと言っていた。大変でも得意な事を生かせるので良い経験になったのではと思う。

聖アンデレ教会将来計画 西側崖地の調査報告

ポーリー 田口知子

二〇二三年五月に、西側崖地の安全対策を進めるため、日特建設による崖の測量と地盤調査を行いました。その結果を報告させていただきます。西側がけ地は全長一〇〇メートル近くあり、人が入れない荒れたがけ地です。毎年の草刈りと一〇年ごとの木柵の交換を行って維持してきましたが、危険な崖として長年教会の皆さまを悩ませてきました。今回、専門業者による詳細な調査を行うことができ、大きな前進だと思えます。

今回の調査でわかったことは、教会のがけ地は関東ローム層という比較的安定した粘土質の地層であり、前回の説明会でお話した「ノンフレーム工法」を実施すれば、土砂災害特別警戒区域のレッドゾーンを外すことができることがわかりました。さて、ここで私の中に再び葛藤が生まれます。日特建設と打合せするなか、アンデレホール側の北側半分は崖は四五度程度の勾配で、地質から考えると土砂災害の危険性は極めて低い、というのです。ノンフォーム工法を実施すればレッドゾーン解除になります。安全対策だけでみると、必ずしも必要ないというのです。一方ショウホール脇の南半分は勾配が急で対策はしたほうがよい。ノンフレーム工法も可能ですが、現在土を抑えている木柵は外す必要があり、レッドゾーンは外せるが、土が隣地に流れる問題は残ります。ワイヤーが入ることで草刈り等の管理もしにくくなるようです。この調査結果を受け、がけの問題は北半分急な崖対策に集中し、安全対策に加え

土の流れる問題や、管理の問題も含め、整備方法を検討したほうがよいのでは、と考えています。どのような形が可能か、目下複数案で検討しています。まとまったら皆様に報告したいと思えます。引きつづき、どうぞよろしくお願いいたします。
(前庭ならびに西側崖地プロジェクトチーム)



聖アンデレ教会
西側崖地

2023年 バザー



二〇二三年 バザー

モニカ 松村信子

「雨のバザーを楽しみました。バザー委員長の掛け声で始まった四年ぶりのバザーは朝からあいにくの土砂降りでした。九月から準備を進めていた私たちにはとても残念なお天気でしたが、その雨の中、始まり待って並んでくださるお客様もいらつしやいました。久しぶりのバザーということで、献品を集める範囲を限り、売り場を小さくした所もありました。いつもより少ないお客様でしたが、大きな混乱や事故も無く、かえって良かったのかもしれない。」

ちよつと寒そうにしていた大人に比べ子どもたちは元気一杯でした。スカウト達の大きな売り声が響き、子ども広場も、ゲストのお子さんは少なかつたものの、教会の子どもたちはゲームに買い物にとでも楽しんでました。

前日に引き続き、大雨の中、外の設営に携わってくださいました方々、ホールを気持ちよく開放してくださいました聖オルバン教会の皆様本当に感謝です。

皆で頑張ったバザーの売り上げ八万二千二十四円(十月十五日集計)は六月のジャズコンサートの売り上げ三万七千六百七十七円と合わせ、全て社会奉仕、世界の難民や子どもたちを支える働きなどに献げられます。誰かのために自分の時間と労力を使って働く、その気持ちで来年も楽しいバザーを迎えられたらと思います。



聖アンデレ教会
広報チャンネル



聖アンデレ教会
ホームページ

思い出のアンデレカレー

マリア 佐藤三重子

今年七月二三日、聖アンデレ教会は、教区主教巡回日でした。礼拝後、高橋宏幸主教様を囲んで愛餐会と懇親の時を持ちました。

久々に男性グループによるアンデレカレーです。一昔前のアンデレカレーを思い出しました。一九七三年、結婚を機に聖アンデレ教会に在籍して、愛餐会で頂いてきたアンデレカレーは、聖堂、そして今のショールホールの所にあったホール、ともに木造作りです。そして新しい聖アンデレホール。松岡正治さんご夫婦によるカレー、小野里俊一さんのお母様によるカレー八木治人さんによるカレー、そして古川清三郎さんをチーフに潮田克彦さん、佐藤睦、八木治人さん、大江利道さん、三好忠彦さん、田中祺一郎さん、大西道雄さん、のメンバーです。

野菜を切りながら楽しそうにしゃべりをして作業は、手際よく、見事なものでした。最後のカレーの仕上げは、古川さんこだわりのスパイス、これは、色々と古川さんが揃えたスパイスです。にんにく、しょうが、ソース、カレー粉は、何種類か入れハヤシライスのルウも少々入れていたようです。十時半の礼拝ぎりぎりまで味付けを見ていました。出来上がりは、抜群です。残ったカレーはピンに詰めてもらい買って帰り、また次の日の食卓に出したものです。新メンバーのカレーも美味しかったですよ、味付けの伸びしろは無限です。楽しみです。



カレーメンバー



聖アンデレ教会
フェイスブック

ファミリーデー



青年大会参加に関して

カタリナ 鈴木みのり

夏に神田キリスト教会にて行われた青年大会に参加してまいりました。「クリスマスチャンとしてみる日本教会」というテーマで分かち合いをした際に、ある参加者から日本人は結婚式やクリスマスは西洋文化に憧れ真似するが、紐づいているキリスト教については偏見を持っている人も多いので、クリスマスチャンであることを周囲に伏せているとの意見がありました。この意見が多くの共感を寄せられていて、韓国出身の参加者からは韓国はどの教会に行っても同世代の若者や自分達よりも若い学生世代も多くいたのに、日本の教会には若者世代が極端に少ないこと、また学校や会社でクリスマスチャンと言うと珍しがられたり、食前の祈りをすると友達に面白がられたりして恥ずかしく思った経験があるとの意見も聞きました。特に気にせず周りにクリスマスチャンであることを伝えていた私はそんな生きづらさもあるのか、と残念に感じました。

教会委員・信徒代議員の選挙に関して

クリステイニス 青木かずこ

私たちの教会では、毎年選挙が行われ、教会委員また、信徒代議員が選ばれます。選挙を通して教会委員のお仕事に興味を持っていただきたく、話し合いがもたれ投票用紙などに様々な工夫をしていますがお気づきでしょうか。特に、男性・女性・年代のバランスを取っていただきたいと思っています。

「いつも同じ人にしておけばいいわ」「どんな人がいるのかわからないから」ではなく、ぜひ積極的なご参加をお願いします。選挙に参加することで、私たちの教会の課題に気づくこともあると思います。「でも、誰にすればいいの？」とお思いになつたら、委員経験者や礼拝のお手伝いをしていらっしゃる方々にお声かけください。今年は十二月二十四日正午が締め切りです、どうぞ積極的な投票をお願いします。

コイノニア

【洗礼志願式】

・十月二四日 吉野美鈴さん

【逝去】

・七月十三日 テモテ吉野信さん

・七月十九日

サムエル吉野昭さん

・九月三日

アンデレ矢嶋靖夫さん

・十月十九日 ヨハネ吉田茂さん

・十一月十一日

グレース竹田和子さん

召された御魂の平安とご遺族へ
主の慰めを祈ります。

◇毎主日週報が発行されています。

教会ホームページでご覧いただけます。
FAX・郵送をご希望の方は事務所までご連絡ください。

◇牧会訪問、自宅や病床での陪餐、ご家族・少人数での礼拝や記念式への参加を希望される方は教会までご連絡ください。

◇教会への月約献金・感謝献金は郵便振替をご利用ください。

ゆうちょ銀行 00160-1-91168
日本聖公会 聖アンデレ教会

◇主日・平日の礼拝（聖餐式、夕の礼拝）はライブ配信されています。教会HPからご覧になれます。

降臨節・降誕節 主な礼拝のスケジュール

- ・12月2日 降臨節第1主日
教会暦2024年度（聖餐式聖書日課B年）開始
- ・12月24日 降臨節第4主日
7:30、10:30 聖餐式
13:30 こどもとともにささげるXマス礼拝
17:00 夕の礼拝
- ・12月24日 降誕日前夕
19:00 レッスン&キャロルズ
22:00 降誕日第1聖餐式
- ・12月25日 降誕日
7:30 降誕日第2聖餐式、
10:30 降誕日聖餐式
- ・12月31日 降誕後第1主日
7:30、10:30 聖餐式
- ・1月1日 主イエス命名の日
7:30、10:30 聖餐式

【訂正について】

さかえ三七九号で掲載した執事トマス日高馨輔執事の写真を引用する際「撮影町田勝彦」の記載が抜けていました。この場を借りて訂正とお詫びをいたします。

(さかえ編集担当)

聖アンデレ教会の足跡

2009年

創立130周年記念事業を行う

1873年、英国のSPG（英国伝播協会）から派遣された宣教師、アレクサンダー・クロフト・ショー師が三田福沢邸に身を寄せ、伝導を開始。1875年（明8）に尾崎行雄ら8名が受洗。その後、人会衆と日本人会衆の礼拝が出来る教会が1879年（明2）に建設され6月4日、新聖堂の聖別式が行われ、初代牧師にショー師が就任。2009年6月に130周年を迎えました。

記念事業として①聖堂周囲の照明・教会入り口の掲示板②ホームページのリニューアル③青山墓地の整備・改修。そして、学びの時として、2月～5月：竹内司祭の講話『私たちの教会』7月：中島松樹さん（軽井沢ナショナルトラスト会長）『軽井沢におけるショー師について』8月：西堀峯夫さん『父西堀榮三郎の生涯について』9月：大森彌さん（東京大学名誉教授）高齢化社会を迎えた日本の現状11月：国見登さん（元立教校長）全国隠れキリシタンのお話し。この年、多くの学びが出来ました。

歴史資料整理係

